

### 鴨川シーワールド

鴨川市の鴨川シーワールドで

24日、昨年5月に館山沖で見つかったメガマウスサメの公開解剖が行われた。世界的にも捕獲例が少ない珍しいサメの解剖には同館の年間パスボー

## 公開解剖に小中学生も

トを持つ県内外の小中学生も見学に訪れた。子宮内からは世界で初めて卵殻が見つかり、出産の調査が進められる。解剖したものは骨格標本にする方針で、成功すればメガマウスサメでは世界初となる。

# 希少サメの生態解明へ 「メガマウス」卵殻を発見

メガマウスサメは昨年5月22日、館山市洲崎沖の定置網にメスがいたのが見つかり、翌朝死亡した。世界でも111例、国内では22例目の希少サメだ。同館は貴重なサメを引き取って冷凍保存していた。

この日はサメの生態学を専門とする北海道大学の仲谷一宏名誉教授らを引き、特別レクチャーとともに公開解剖を企画。子どもにも興味を抱く子どもも



メガマウスサメの口の中に興味を抱く子どもも

興味を持ってもらおうと、パスポート会員の小中学生も招待した。レクチャーでは、希少サメの発見の歴史や行動パターン、餌の食べ方といったこれまでの研究成果を分かりやすく解説した。国内では1989年に浜松沖で初めて確認されたという。解剖の際には子どもたちに肌に触らせ、口の中をのぞかせたりした。

研究者らは体長や尾びれの長さを計測。内臓を取り出した際には子宮から卵殻が見つかり、研究者も驚きの表情を浮かべた。メガマウスサメは親の体内で发育して生まれる胎生であるとみられていたが、卵殻が発見されたことで、その実態解明が大きく前進する。

参加した鴨川市の小学4年生、渡辺奏多君(9)は皮膚が軟らかく、唇が硬くてびっくりした。子どもがど



世界的にも捕獲例が少ないメガマウスサメを触る子どもたち。24日、鴨川市の鴨川シーワールド

のくらい大きいかなど、もっと知りたいと思った」と声を弾ませた。解剖は、骨に付いた肉を除去するため3日間ほどかかる。メガマウスサメは軟骨のため、骨格標本作製するには骨をプラスチックに代えるという。勝俣浩館長は「世界初の卵殻の発見ができ、子どもたちも興味津々だった。骨格標本には特殊な処理を施す細かい作業が必要だ」と話していた。2018年度内にはめ

### きょうの紙面

テレビ 12 ラジオ 17



#### メガマウスを公開解剖

鴨川シーワールドで24日、捕獲例が少ないメガマウスサメの公開解剖が行われ、子宮内から世界で初めて卵殻が見つかった。